

# 石垣移民について

—地域史協議会石垣島研修に参加して—

今月は、西原町史編集事務局

局が参加した沖縄県地域史協

議会の石垣島研修の報告をし

たいと思います。

今回の研修のテーマは「移

民」。移民といっても、南米

やハワイといった海外移民で

はなく、石垣島への移民です。

石垣への移民は①十八世紀

頃の琉球王府強制移民に始ま

り、②明治頃に自由に移住し

てきた寄留民、そして③戦前

の日本政府開拓移民、④同時

期の海外移民引き揚げ者など

による自由移民、⑤終戦直後

の宮古群島政府移民が一九五

〇年代に琉球政府開拓移民へ

と合流していった歴史があり

ます。

”その中に西原町出身者が

いたのか?”

石垣移民についての文献や

報告書の数はとても少なく、

その実態についてはまだまだ多く

が語られていません。

しかし、地元石垣で移民研

究を続けている友寄英正氏の

報告によると、石垣への移民

名簿(戦後・開拓移民)には

西原町出身者も記載されてい

るとのこと。(移民先は栄・

兼城など)

石垣島への移民者は、主に

裏石垣と呼ばれた土地で新た

な生活を始めましたが、そこ

はマラリアや道路の整備がさ

れていない苛酷な場所で、移

住者の努力や苦労は並大抵の  
ものではありませんでした。

移民地・明石で私達にお話

してくださった方々の言葉

の端々にも、その苦労がうか

がえました。しかし、「苦し

かったという言葉ばかり口に

してしまいが、その中には心

トキメク楽しい事もあり、今

は、誇りをもって明石にきて

よかったといえる。」との言

葉には、心を熱くさせるもの

がありました。と同時に、地

域の人々の生活や歴史を記録

するといった地域史に携わる

上で、人々の人生や想いを伝

えなければ……と意を新たに

した、充実した研修会でした。

